

忘れまい 4・24

阪神教育闘争 50 周年記念誌



発行 阪神教育闘争 50 周年記念神戸集会実行委員会

獄中詩

獄裡愁多夢不成
光風霽月照荊城
山腰村在雲生突
羽口樹高日掛枝
寧死不貪時富貴
苦生莫道世怨聲
教育鬭争四二四
年々歳々難忘心

朴柱範

獄にあつて愁いは多く夢はなお果たせない
晴れわたつた空の月が刑務所の建物を照らしている
故里の村に雲の湧き
高い木の梢に鳥が啼いて日の傾くのを想う
いまはむしろ死すとも富貴をむさぼるときでない
自分は獄中の身だが憤りの声は世にあふれている
教育鬭争の四・二四
年々歳々その心は忘れられることがない

〔解放新聞〕一九四八年十一月三十日 対訳 安桂芳

獄中詩(2)

慶祝人民共和国

朴柱範

人民共和国を祝う

半島江山錦繡臺
西風九月槿花開
奉賀喜曲穿雲出
統一欣聲渡海來

半島の山河は錦織のように美しい
西風の吹く九月むくげの花が咲き
喜び祝う歌は雲を突き抜け
統一の喜びの声は海を渡り来る

政府既立人民國
和宗自生慶祝盃
在獄同志何不參
刑門斜日獨徘徊

政府既に人民共和国を建てる
志を同じくする者は自ずと慶びの祝杯をあげる
獄にいる同志はどうして参加できないのか
刑務所の門に夕日だけが移ろう

(11月22日大久保刑務所)

〔解放新聞〕一九四八年十一月三日 仮訳 堀内 稔



獄中の朴柱範氏。神戸大久保刑務所病舎にて（1948年？）

※経歴については10ページ参照

朝鮮民主主義 獨立

朝鮮支部本山分會學院
第一學年 嚴柱錫

全國朝鮮
兒童學院圖書展覽會



【平和】第5号
（1946年11月20日、在日本朝鮮人連盟兵庫本部文化部発行）

4・24教育闘争50周年を記念して

1. 1948年は朝鮮が統一か分裂かの時期

分断統治

38度線における南北の分断は、戦争終結の際、朝鮮半島の日本軍の武装解除を名目として進駐した米ソ両軍によって人為的に行われた。1945年12月のモスクワ3相会談の決定により、朝鮮の臨時政府樹立のために米ソ共同委員会が設けられ、問題解決に努力するが失敗に終わり、1948年5月には国連の監視下に南だけの単独選挙が実施され、分断政府が誕生した。

在日本朝鮮人連盟

日本敗戦直後、故国への帰国と生活権を守るため各地で多くの朝鮮人の自主団体がつくられたが、10月にそれらが結集して在日本朝鮮人連盟が組織された。組織後もなく日本共産党の指導方針のもとに左翼的な色彩をもつようになった。1949年9月、GHQの指令で解散させられた。

GHQ

General Headquartersの略で連合国最高司令官総司令部を指す。敗戦後の日本を6年間にわたり絶対的な権力をもって支配した。もとはマッカーサーが反日攻勢のための連合軍を組織したときの司令部に使われ、それが日本本土進攻を前にアメリカ太平洋陸軍に改編された後も継続された。

1945年8月、第二次世界大戦が終わり、朝鮮が解放された。

日本にいた朝鮮人たちは解放された祖国へと、巣に帰る鳥のように帰って行った。しかし、当時の朝鮮の事情は不安定だったため、帰国を思いとどまる者がいた。こうして、200万名以上いたという朝鮮人の内、約50-60万名が日本に居残ることになった。

解放直後朝鮮は、米国とソ連によって南北に分断統治された。それを統一しようとする動きは活発だったが、1948年に入って分裂の固定化がせば詰まってきた。

在日朝鮮人の社会にも祖国の動きがもろにひびき、最初は一つだった在日朝鮮人の団体も左右に分かれ、それぞれが南北の主張を支持し活発な活動を繰り広げていた。しかし、在日朝鮮人の圧倒的的支持を受けていたのは、統一運動を進めていた北を支持する在日本朝鮮人連盟（以下朝連と略す）だった。

日本を占領しているアメリカを中心としたGHQは、朝鮮の統一は朝鮮半島の“赤化”と見なして、日本を『反共の防波堤』にする政策を1947年ごろから推し進め始めた。そのためには、日本の進歩勢力や北を支持する動きを根絶やしすることが必要になった。このような歴史的な背景で、在日朝鮮人の学校に対する弾圧と、それをはねのけようとする闘いが起こった。



当時の教科書

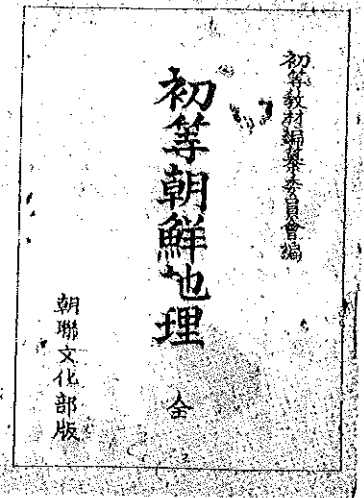
初等理科

上巻

初等教材編纂委員會編



朝鮮文化出版



2. 在日朝鮮人の民族教育を守る闘いのはじまり

解放前には日本の皇民化政策によって、朝鮮人が朝鮮語を教えることすら禁じられていた。そのため、多くの在日の子供たちは自分の国の言葉や歴史を知らなかった。

解放後朝鮮人たちは、すぐに帰国するしないにかかわらず、朝鮮の言葉や文字、歴史や地理を子供たちに教え始めた。“寺小屋”学校のはじまりである。朝鮮語や歴史を知っている人が報酬もほとんどあてにせず先生になり、お金を持っている人はお金を出しあって、学校を運営しはじめ、それを本格的な学校へと発展させていった。

そうした勢いから 1946 年 6 月 26 日には、姫路地方で、建国中学校（大阪）とならび日本で最初の朝鮮人中学校が飾磨朝鮮初等学院の校舎に併設された。

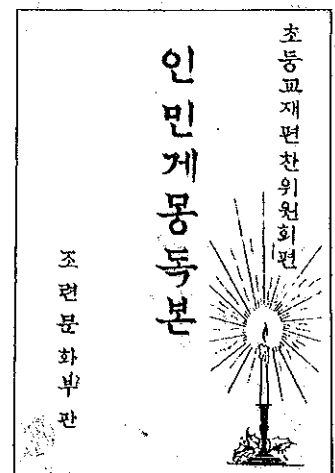
こうした学校は日本全国至るところにつくられ、最盛期の 1948 年 4 月現在では 6 万名以上の生徒が 600 校ほどの学校に通うまでになった。すなわち、在日の学齢期のほとんどの児童が朝鮮学校に通っていたと言える。

これは、立場を変えてアメリカ側から見ると、目の上の“タンコブ”的存在であった。朝連イコール朝鮮学校、統一運動を進めている朝連の大衆的地盤が朝鮮学校だったからだ。北を支持し統一運動を進めている朝連を叩きつぶさねばならない。そのためには朝鮮学校を閉鎖しなければならない必要に迫られた。こうして、朝鮮人学校への弾圧の手が打たれた。

その最初は、日本文部省に出させた『官学第 5 号—朝鮮人設立学校の取扱について』という通牒（1948

皇民化政策
日本人の植民地統治下で朝鮮人を戦時動員体制に組み込むためにとられた一連の政策。朝鮮人の民族性を抹殺し、日本人化するための同化政策で、皇国臣民の誓詞の斉唱、神社参拝、日本語の常用が強要され、名前を日本式に改める創氏改名などの諸策が実施された。

飾磨朝鮮初等学院
飾磨、広畑地区に住む朝鮮人のほとんどは新日鉄広畑、姫路（飾磨）港に従事していた人たちで、解放直後の 9 月 6 日から国語教習所をもとに民族教育が始められた。10 月 3 日朝連飾磨支部が結成されるにおよび、3カ所あった講習所を合併し、10 月 30 日に英賀東町に飾磨朝鮮初等学院を開校した。





帰国船を見送る同胞たち（1945年10月ごろ、西宮港にて）
徐元洙氏提供



金太一君の写真を先頭に行進する同胞たち（1948年4月28日 大阪）
朝鮮新報社提供

年1月) だった。その要旨は、

- ・朝鮮人の自主教育は認めない
- ・朝鮮児童は日本学校に編入すること
- ・朝鮮人の学校設立は認可しない
- ・本年3月で全ての朝鮮学校を閉鎖すること

などで、これを朝連と各朝鮮人学校に通達した。

このような朝鮮人の民族的感情、利益を無視した日本政府の強圧的な態度に対して、当然、朝鮮人側の反発がわき起こった。

3月31日、山口県では、一万名もの朝鮮人が朝鮮学校閉鎖反対の民衆大会を開き、日本人の応援も得て「24時間座込み闘争」を行い、県知事と山口軍政部司令官らから学校閉鎖命令の一時執行停止を勝ち取った。これは、岡山県の闘いを勇気づけ、ここでも同様の約束を取り付けるという勝利を得た。これらは、4・24の闘い以前での大きな勝利だった。当然、兵庫県での闘いの励ましとなった。

同じころ、朝連中央も動きはじめた。

同年3月23日、朝連中央はこの問題を専管する教育対策委員会を組織し、その下部組織を各地方に設けた。

3・1 独立運動

1919年3月1日を期して始められた朝鮮近代史上最大の反日独立運動。この日33名の民族代表が署名した独立宣言書が各地でまかれ、独立万歳の示威行動が展開された。運動は数ヶ月続けられたが、日本の支配層は憲兵、警察のほか正規軍も投入して徹底的に弾圧した。この運動への参加者数は200万を越え、死者7500、負傷者16000、逮捕者47000を出したといわれる。解放後は南北を問わず、記念日として重視されている。

3. 神戸、大阪での闘い

神戸での闘いも熾烈だった。

兵庫県では1948年、3・1独立運動記念の集会でこの問題がはじめて大衆的に取上げられ、闘いが始まった。朝鮮人学校の閉鎖反対を要求する陳情が、県と市に対し連日のように行われはじめた。しかし、GHQ側の強力なたびかさなる指令により兵庫県(知事は岸田幸男)と神戸市(市長は小寺謙吉)は、神



無差別に検挙する警官

『神港夕刊』1948年4月29日付



A級軍事裁判にかけられた闘士たち

前列右から 金錦吳、金高弘、金昌植、金台三の各氏

後列右から 車龍錫、梁民涉、堀川一知、張致殊、辛基植の各氏

(1948年6月神戸刑務所にて) 【解放新聞】1948年7月10日付

戸市内の市立校舎を借りている4校（朝連が運営している灘初等学院、東神戸初等学院、西神戸初等学院と建国青年同盟が運営している学校）に対し、3月31日をもって市立校舎からの立ち退きを命令した。

兵庫の朝連と各朝鮮人学校側は、立ち退きの猶予と自主学校としての存続を要求する陳情を繰り返した。朝鮮人学校は立ち退きの期限が過ぎても開校していた。GHQや県、市側はあせった。

こうした時、一度に70余名もが逮捕されるという事件が発生した。4月14日、県下から選ばれた朝鮮人の代表たち70余名が県庁に押し寄せ、この問題での交渉を知事に要求した。しかし、会ってくれないので同夜、県庁舎に泊りこんだ。なんらの成果もなく、手ぶらで帰れない、仲間に報告できないとしてだった。

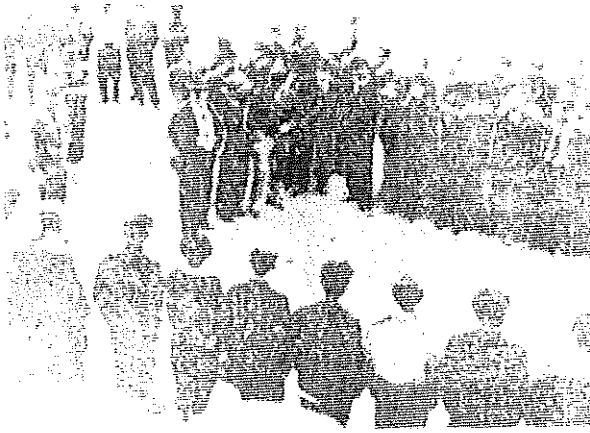
翌15日、知事が初めて面会した。しかし、代表数が多い、もう面会時間（たった5分！）が過ぎたと行って退席してしまった。この件での知事との面談は、これが最初で最後であった。なんらの話し合いもなかったことで、代表らの怒りは増すばかりになった。同夜、閉庁時間なので退庁せよとの命令が下ったが、代表たちは居座った。警官隊が出動して代表全員が不法占拠（不退去罪）で逮捕された。

このような行政側の態度は、朝鮮人の民族心を逆なでした。自分の子供に母国語を教えるのがなぜ悪いんだ、と。学校閉鎖が強行されることを予想して、父兄らが交代で学校に泊り込んで守りはじめ、県と市へは毎日、時には日に何度も閉鎖命令の取消し、または、その猶予を要請に行った。

しかし、GHQ側の態度は強硬だった。4月23日、

校舎の貸与

占領当初GHQは、在日朝鮮人の民族教育に対してほとんど干渉しなかった。文部省も、各種学校としての設立は認可しても差し支えないとしていたので、地方によっては朝鮮人学校に校舎の一部を貸与した。兵庫県では教室の明け渡し、学校閉鎖の口実に公立学校の校舎不足が使われたが、当時朝鮮人学校が公立学校の校舎を借りていたのは神戸と尼崎市内の計6校、31教室だけで、これを明け渡しても、当時の兵庫県の教室不足解消にはほとんど役に立たなかった。



首実検する県知事ら
『神港夕刊』1948年4月29日付



青空教室（1948年、須磨の海岸で）
【西神戸朝鮮初中級学校沿革誌】より

市内の三つの学校を強制的に閉鎖した。その際、警官に腹を蹴られた妊婦が流産したり、重軽傷者、逮捕者が多数でた。だが、西神戸の朝鮮人学校だけは閉鎖できなかった。警官隊が来たとの知らせが伝わると、瞬時に朝鮮人父兄らが集った。校内での泊り込み組と駆け付けた父兄らに挟まれた警官隊は、彼らの勢いに押されて閉鎖できなかったのである。

翌24日、県知事室。

ここには、県と神戸市の行政、司法関係者10余名が朝から集って協議をしていた。議題は、前日閉鎖できなかった西神戸の朝鮮人学校をどうするかであった。この時、朝鮮人側と行政側とのパイプ役をしていた堀川一知（日本共産党員、神戸市会議員）が、知事との約束があったので知事室を訪ねた。しかし、知事は今忙しいので後で会おうとのことだった。部屋から出てきた堀川は、廊下にいた朝鮮人たちに知事たちの所在を聞かれたので、今知事らは知事室に居ると答えた。それを聞いた朝鮮人たちは知事室に押し掛けた。それを知った知事らは、室内で机や椅子でバリケードを築く。朝鮮人らはそれを押し破って室内に入った。

知事らは要求された交渉に全然応じようとしなかった。彼らは救出を願っていた。MPが三名来た。MPは拳銃を突き付けた。危機一髪の際に、金昌植が胸をはだけてその前に立ちはだかった。『射つなら射てっ！』。若い女性もそうした。若い青年らをとっさの行動は、MPを圧倒した。彼らは知事らを救出できずに帰って行った。

万事休した知事らは、朝鮮人代表らとの交渉に応じた。その結果、次のような約束をした。

1.朝鮮学校の閉鎖命令は撤回する

MP
military police の略で軍事警察、すなわち憲兵のこと。



4・24教育闘争1周年記念中央人民大会（1949年4月25日神戸市湊川公園）
大会には全国から4万5千人の同胞が集まった。 朝鮮新報社提供

2.朝鮮学校の設立申請があればそれを認可する

3.現在の朝鮮学校を認可する

4.4月15日の件と本日の件は不問にする

同じ時期、大阪でも熾烈な闘いが展開されていた。朝鮮人たちは、府庁への波状的な要請行動を繰り返した。

4月26日、大手前公園での集会に参加していた金太一少年（16歳）が射殺された。

4. 米軍の弾圧

4月24日の夜中米軍は、米軍神戸管区内に「非常事態」を宣言した。米軍の日本占領期間でただ一度の非常事態宣言であった。

日本占領米第八軍司令官アイケルバーガー中將は、神戸に来て記者会見を行い、『今、神戸港にクインエリザベス号があれば、非文明的行動を行った朝鮮人を全部本国に送還したい…』と語った。

「朝鮮人狩り」が行われ、一週間ものあいだに千数百名もの朝鮮人やこの運動を支援した日本人が捕えられた。同時に、兵庫県下の朝連の各事務所と朝鮮学校が閉鎖された。これらの米軍側の行為は、練られた計画的な弾圧だった。

しかし、全国的な同胞たちの粘り強い闘いはつづけられ、5月5日、朝連中央と文部省とのあいだに妥協が成立した。これによって、条件付きながら朝鮮人学校の存続が認められた。

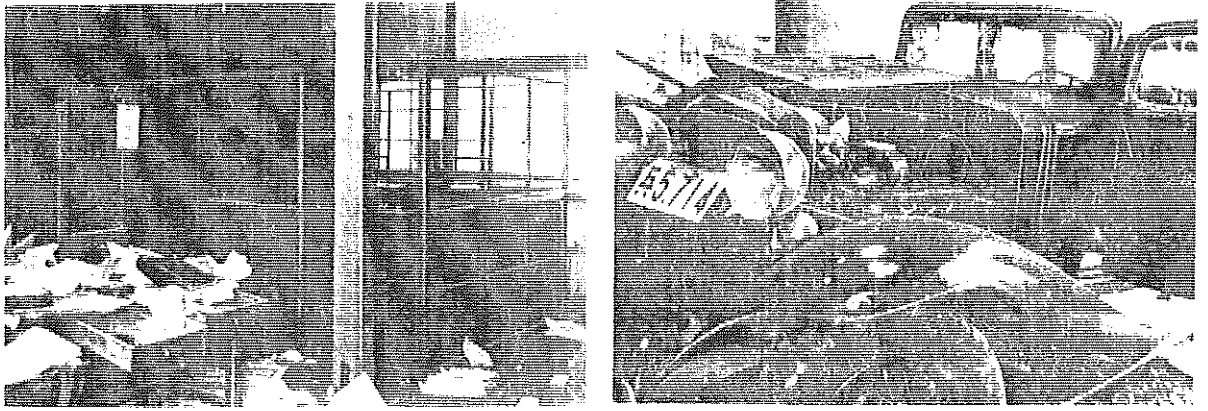
これに基づき兵庫県でも交渉が進み、5月10日、再建兵庫県朝鮮人教育対策委員会と兵庫県とのあいだでも覚書が交換され、やはり条件付きながら朝鮮人学校の存続がみとめられた。条件付きながらも、

4・24 教育闘争の呼称

4月24日の知事との交渉で朝鮮人学校の存続が認められ、勝利したとして、朝鮮人はこれを「4・24（サイサ）」と呼ぶ。また、大阪と兵庫の闘いを合わせて「阪神教育闘争」とも呼ぶ。

条件付き

朝連中央と文部省の交渉で交わされた覚書は次の通りであった。①朝鮮人の教育に関しては、教育基本法、学校教育法に従う②朝鮮人学校問題については、私立学校としての自主性の認められる範囲内において朝鮮人独自の教育を行うことを前提として私立学校としての認可を申請する。この譲歩は、合法的な形での朝鮮人学校存続のため、やむを得ずなされたものであった。しかし、自主的な民族教育の存続を明文化したことは闘いの大きな成果であった。



警官の暴行により破壊された朝連兵庫県本部内（左）と乗用車（右）
『朝鮮人教育闘争記録』（労農運動救援会兵庫本部 1948年8月30日発行）より

方の同胞たちを励ます意味をも込めてのことだった。この委員会の議案の一つとして、4月24日を記念日に決めることも上程された。『この教育闘争は在日朝鮮人運動中最も挙族的闘争』であり、特に4月24日は特記すべき出来事だったので、4月24日を永遠に記念することにした。

この闘いでは、二人もの貴重な犠牲が強いられ、数千人が逮捕され、数十人が裁判にかけられ投獄された。この闘いのシンボルは、「ウリマル」と「ウリクル」だった。それを守るために、全国の朝鮮人が一致団結して決起した。そうして、絶対的な権力者であったGHQの命令をはねのけ、「ウリマル」と朝鮮人学校を守りとうした。だから、現在の朝鮮人学校がありうる。歴史で仮定は許されないが、もしあの時米軍の命令に従ってれば、今の朝鮮人学校はありえないだろう。

あの時闘いを支えたのは、「ウリマル」は民族の魂の象徴であり、二度とこれを取り上げられたくないという切実な願いであった。その精神は今日に残された精神的遺産である。また朝鮮人学校は、全在日朝鮮人の貴い犠牲で得られた物質的遺産である。

だからこそ、朝連は4・24を永遠に記念することに決め、全国の各朝鮮人学校はこの日を公休日とし、実情に応じて各種の記念行事を行うことも決めた。同時に、朴柱範教育賞状、金太一教育賞を授与することも決めた（1950年10月）。

我々はこの闘いの意義を、末永く後世に伝えていかなければならない。

ウリマル・ウリクル
ウリは朝鮮語でわれわれを意味し、同類・一族・自党を代表して言う場合にも使われる。マルは言葉で、ウリマルは民族の言葉、すなわち朝鮮語を表す。またクルは文字の意味であるから、ウリクルは朝鮮文字、すなわちハングルのことである。

朴柱範氏略歴

1885年慶尚北道義城郡舎谷面梧上洞に生まれる。村の書堂で漢学を学び、18歳の時に近隣村の金愼淳と結婚。新しい学問を修めるため大邱に出て測量技士となり、「官に雇われて」全国の測量業務につく。1925年ごろ家族を大邱市鳳山洞に呼び寄せるが、その後業務上の失策を犯し、職を解任される。

1927年、日本に渡り芦屋に住む。翌28年大邱に住む妻金愼淳、長男東熙、次女再禧、次男仁熙等を日本に呼び寄せる。この時長女はずでに結婚していた。1930年武庫郡本山村森市場の北側空き地に10余棟のバラックを建てて朝鮮人部落をつくり、朝鮮人労働者の飯場を開く。

1931年、関西学院神学部出身の金英哲牧師（37年には宝塚の普及福音教会牧師。解放後、郷里の公州で左翼の疑いで逮捕され、その後の消息は不明）を迎えて教会（監理教＝メソジスト）を開きその領袖（長老教会の長老のようなもの）となり、同胞信者を集め教理説教と啓蒙運動に尽力する。

1932年武庫郡本庄村深江阪神国道沿の本山村森市場南側に移転し、同胞相手の雑貨店を開き朝鮮人参も販売する。また朝鮮日報支局を置き読者拡大にも努める。

阪神消費組合では1933年の第3回大会で資格審査委員、35年の第5回大会で副議長を務め、翌36年には理事に就任した。35年10月には阪神消費組合青木出張所夜学運動会に寄付をしたという記録が残っている。遺族によると1942年には理事長になったという。

1937年5月武庫郡本庄村村議会選挙に立候補し53票で当選、1942年6月にも再び当選する。最初の当選時の所属団体は朝陽親睦会。

1939年頃に東本庄村深江700番地に移転する。また1941年頃には、新井組を設立して上木業を営む。

1945年解放後、朝鮮人聯盟阪神支部委員長となり、2年後に兵庫県本部の委員長に就任する。

同胞の世話をよくされた方で、就職斡旋、一時帰国の際の身元保証人などをよく引き受け、また裁判にからむ事件が起こった時には、釈放の為に尽力しその保証人を引き受けたりした。

※阪神消費組合

1931年3月金敬中らにより足崎で設立された朝鮮人の消費組合。兵庫県朝鮮労働組合が解消し共産党系の日本労働組合全国協議会（全協）に加入することになったため（1930年）、それに加入しない阪神間の朝鮮人労働者が多数参加、最盛期の大会では350名が参加したと記録されている。日常活動は生活に必要な米、みそ、醤油、明太、とうがらしなどを市価より安く販売することであったが、夜学を設けて文字の普及活動を行ったり、南朝鮮や関西地方の水害（1937年）の救援活動などを行った。官憲資料で1941年まで存在が確認できるが、その後いつ解消したのかについては不明。

朴柱範氏についての報道記事

1 『社会運動通信』

- 1933年 3月22日 阪神消費組合第3回大会（1月22日）で資格審査委員
1935年 3月22日 阪神消費組合第5回大会（3月17日）で副議長を務め、理事に選出

2 『民衆時報』

- 1935年11月15日 阪神消費組合青木出張所夜学運動会に寄付
1936年 3月 1日 阪神消費組合第6回大会（2月22日）で理事に選出

3 『解放新聞』（原文は朝鮮語）

- 1948年 7月 1日 「朴柱範外11名軍事裁判開始」
11月30日 「獄中詩」
12月 3日 「大久保刑務所訪問記、獄中に四・二四事件犠牲同志を訪ねて」
1949年 1月 9日 「朴柱範氏釈放加療中」
3月21日 「在監者および遺家族一覧表」
5月 3日 「五同志不遠中釈放、神戸基地司令官言明」
5月12日 「四・二四事件獄中同志声明」
6月 3日 「朴柱範氏祝賀詩投稿」
7月25日 「朴柱範氏危篤、無罪釈放運動を展開」
11月28日 「四・二四教育事件の愛国者朴柱範氏獄死、仮出獄三時間後に」
11月30日 「教育闘争の貴重な犠牲者三十日盛大な人民葬」
12月10日 「偉大な足跡を残し永遠の眠りについた故朴柱範氏の葬儀式」
12月13日 「詩 故朴柱範詩一獄中作」
1950年 2月18日 「故朴柱範氏遺家族本国へ、轟く人民抗争歌で餞送」
5月11日 「大阪四・二四記念大会盛況、金太一・朴柱範霊に黙想」
1951年 5月20日 「四・二四を盛大に記念」（日本語版）
※朴柱範教育賞（1950年10月制定）の授与
1954年 3月30日 「教育賞を授与、四・二四大会で」
4月29日 「民族教育防衛に輝く英雄達、教同愛知県支部など団体個人を表彰」

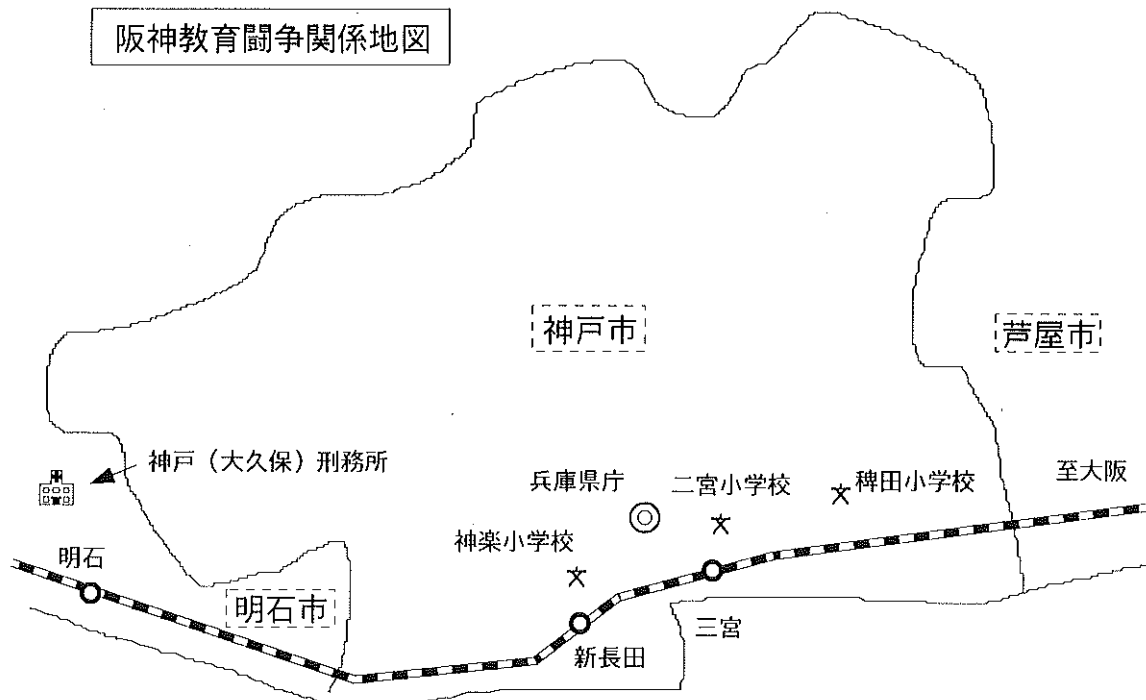
4 新聞記事以外

- 内務省警保局「社会運動の状況」1937年
5月10日 武庫郡本庄村村議会選挙に立候補して53票で当選
内務省警保局「社会運動の状況」1942年
6月20日 武庫郡本庄村村議会選挙に立候補して当選

4・24阪神教育闘争関連年表

		(本国・世界の動き)
1946年		1945年
11月20日	G H Qは「在日朝鮮人の地位および取扱いについて」の指令を出す	8月 日本敗戦、朝鮮解放
1947年		1946年
4月12日	文部省学校教育局長は朝鮮人児童の就学義務に関する通達を出す	7月 中国;全面的内戦開始
11月	G H Qが朝鮮人学校閉鎖を指令	1947年
1948年		1月 日本;G H Qが「2・1ゼネスト」中止を指令
1月	フィリップが兵庫軍政部の教育課長に就任、県や市に朝鮮人学校閉鎖を強く働きかける	1948年
1月24日	「朝鮮人設立学校の取扱について」という文部省通牒がだされる	1月 米陸軍長官、「日本を反共の防波堤に」と声明
1月27日	朝連第13回中央委員会で学校認可問題を討議、民族教育の重要性を再確認	
2月17日	兵庫県教育部長名で文部省の通牒を県の各市長、地方事務所長らに通知	4月 (3日)朝鮮;濟州島の「単独選挙反対」の闘いがパルチザン闘争へ
3月 1日	3・1 独立運動29周年記念兵庫県人民大会が開催され、4千余名が参加	4月 (19日)朝鮮;平壤で南北連席会議、南北統一選挙の実施要求を決議
3月 6日	朝連中央は教育は自主性にまかせるなど6項目の決議文を森戸文相に提出	5月 朝鮮;南だけで単独選挙
3月23日	朝連は教育対策委員会を中央に組織、地方に下部組織を作るよう指示	8月 大韓民国成立
3月31日	山口県で交渉の結果学校閉鎖令執行の即時中止を勝ち取る/大阪府、市当局は朝鮮人学校の明け渡しを命ずる	9月 朝鮮民主主義人民共和国成立
4月10日	兵庫県は朝連へ閉鎖命令を手交	
4月15日	県庁舎からの不退去罪で70名の代表全員逮捕	
4月16日	岡山県下の闘いで学校閉鎖令が解除	
4月23日	西神戸、東神戸、灘の朝連初等学院に対し校舎明け渡しの強制処分を執行、西神戸を除き執行される/大阪大手前広場で学校閉鎖反対の民衆大会が開かれ警官隊の暴圧で200余名が検挙/米軍政部は朝鮮人は日本の法律に従えという内容の声明を発表	12月 中国;人民解放軍が北京解放
4月24日	県庁の知事室での交渉で学校閉鎖令の撤回を勝ち取る/同夜神戸基地司令官は非常事態を宣言	1949年
4月25日	朝鮮人の無差別逮捕が開始され、県下で1732名が逮捕	7月 日本;下山、三鷹事件
4月26日	大阪の大手前公園で学校閉鎖反対人民大会が開催され、解散を実力行使した警官隊に金太一少年が射殺される	9月 日本;朝連と朝鮮民青が強制解散
5月 3日	文部省と朝連との間の交渉妥結調印	10月 中国;中華人民共和国成立
1951年		1950年
12月24日	軍事裁判被告全員が釈放される	3月 日本;日本共産党幹部追放
		6月 朝鮮;朝鮮戦争勃発

阪神教育闘争関係地図



朝連阪神支部の初代の役員たち
前列中央が朴柱範委員長 1945年11月 (徐元洙氏撮影)



朝連阪神支部の大運動会で挨拶をする朴柱範委員長
1946年10月（徐元洙氏撮影）



阪神朝鮮小学校 1950年3月26日（徐元洙氏撮影）



一九四五年八月十五日は祖国が自由と独立を約束された日である。その日から失われた言葉と文字を教え立派な朝鮮人を育てるべき文化活動は始まった。これは希望に充ちた児童達の校庭に於ける平和な一時である。

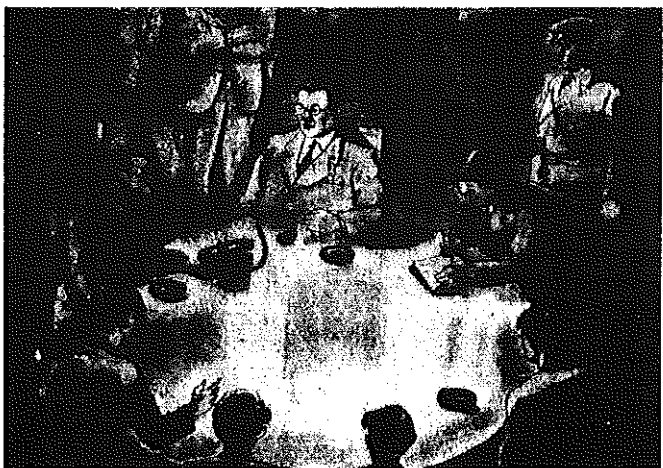


反動日本政府は解放民族である朝鮮人に対し再文化侵略の魔手を伸ばさんと躍動し、占領軍の甘みに過ぎた政策に増長して朝鮮人の弾圧に狂奔している。
△祖国民族文化自主性確立





教育の不当弾圧で山口県の同胞達は真先に闘争を展開した。山口県庁を取囲んで徹夜に炊出しに民族文化を守るための団結はかたし、かくして先づ勝利をかち得た。



大阪では人民大会の代表に依って知事との交渉に入った。然し彼等は計企的な強圧でもって臨み交渉はかどらない、またまた日本の支配階級や官憲の頭はファシスト的軍国主義でいっぱいである。



数千の大衆が交渉の報告をまつているが素嗜らしいニュースは来そうもない。遂に大衆は府庁の中へなだれ込んだ、見よこの警官のピストルの脅威を！

大衆は整然と指揮者に従う、情報伝達の民青員はトラックの上で交渉の経過を報告する。斯うして一糸乱れぬ闘争体制は成り立った。



棍棒とピストルは何時の間にか正しい要求と正当の権利を押しさえる為の武器となった、若い娘の頭をなぐり多数の青年に脅威と暴行を加えた。これが日本警察の民主化である。



更に新兵器が発明された。消火ポンプは大衆運動の弾圧道具となった。反動共は火事より大衆運動が如何に怖いかを知った。大衆のない国家が誰の為に有る。





斯る弾圧と暴行もものかは大衆は指揮者に従って秩序正しく解散して行く。金太一君は此の時から撃たれて死んだ。南京やバタアンの二の舞である。



我々の代表が兵庫県知事と交渉して居る数千の警官は之を取り巻き威脅と強圧で一方的に出た。奴隷になるより死をえらぶがよしたと決意を示す我が代表達。斯くして我等の全面的要求は通った。

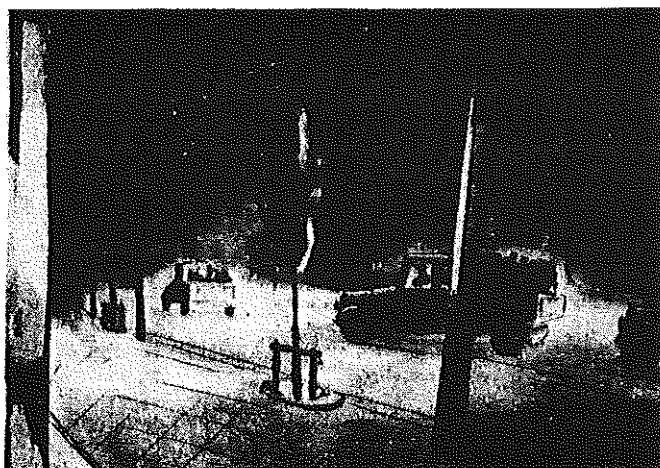


此処でも大衆は不法弾圧に抗して立ち上がった。此の整然たるデモに彼等は怖え上がった。全く無茶苦茶なあがきである。見よ此の警官の不法に激した大衆の怒りを。

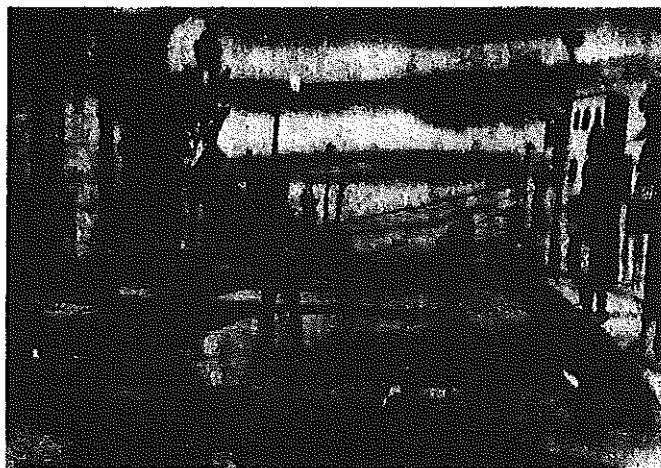
四月二十四日、七十三名の同志は釈放された。辛い闘争を通して勝利はわれらのものとなった。要求は全部通った。民族文化は団結の力によって守りうる事が出来る。



然るに翌朝非常事態が宣言せられ暁の街頭を警官のトラックが疾走している。先づ県東部がおそわれた、誰が日本当局者の言葉を信用出来ようか？ このひれつな逆襲ぶり。



人影もない街の情況、武装警官が要所要所に、果して朝鮮人がなにをしたと云うのだ。警察国家再建に狂奔する一場面。

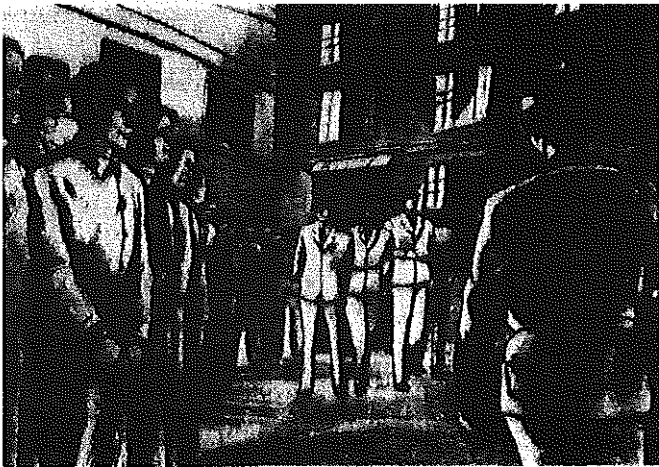




一日の中に三千人の同胞が検束された、全く朝鮮人狩である。この中には北海道九州等から来た旅行者もふくまれている。今日敗戦日本で公然と行はれる警官のテロが如何にうまく国際的な反動と結びついているかを知る事が出来よう。



教育闘争は朝鮮人全体の問題である。この血みどろの闘争にもこれを邪魔し日警と協力する徒輩がいる、見よ建青の反逆ぶりを、朝鮮人の家を日警に教えて歩く建青を。



首実検である。この中から誰を指摘出来るか、どうせ朝鮮人だからいつでも構はない、こうして無辜な同胞は裁判に附された。

日本の新憲法は自由と平等が約束されている、然しそれは活字だけのことで実際はこの留置人が何かの名目で入れていることである昔とちつともかわらない格子である。

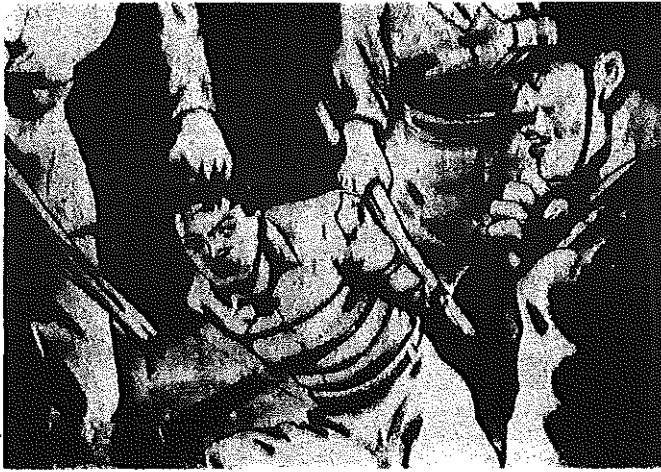


その損害額一千万円の相場では数字も出ない、神戸の真中で警官の手によりこれだけの暴行が公然と行はれるところに今後の問題と世界的性格がある。



警察は朝連兵庫県本部を破壊した折角これまで徹底するかと思える位常識では計り知れないやり方である。時計、タイプライター、金庫原型を止めるもの一つもなし。





我々は忘れてならないことに拷問がある、先づなぐる。ける。吊り下げる。水をのませる、至れり尽せりの方法である。そして沢山の人に虚偽の事実を吐かせそれを罪にてっち上げる。



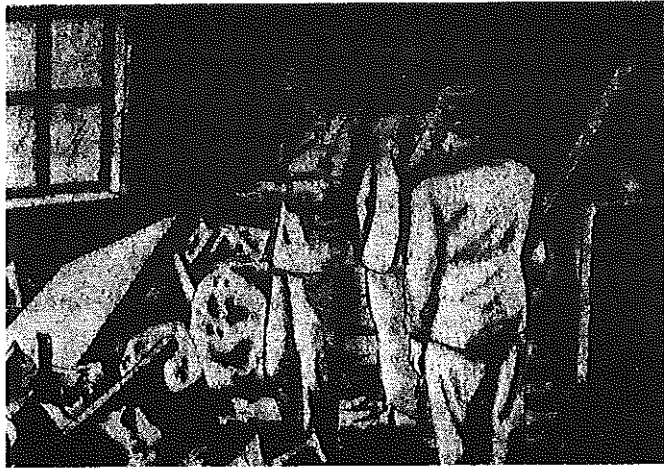
何の訳も知らない青年を酷い拷問にかけたあげく彼は辛さに堪えかね飛降り自殺をはかったが未遂に終った。戦時中九段の憲兵隊で起きた事件を思い出す。何処がちがうか？



男が全部検束された、或るものは怖くなくて逃げまわる始末、兵庫女性同盟の皆様は敢然と立った。先づ救援、連絡、情報宣伝と実に頭の下る活躍ぶり、闘いなくして勝利は有り得ない。



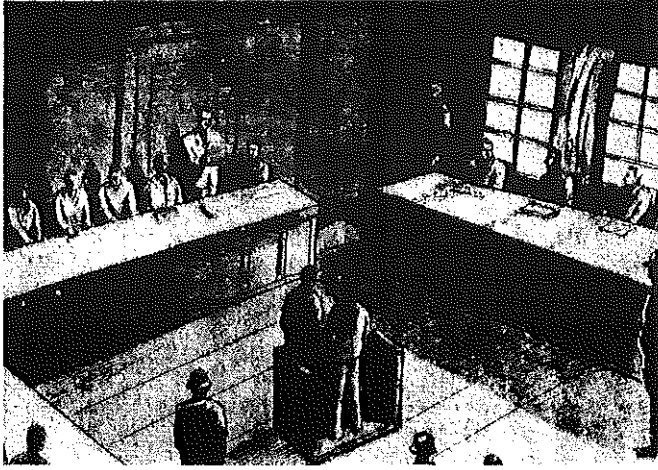
常に口にする両民族の民主的提携野坂参三氏は国会で神戸に於ける朝鮮人行動を正しいと演説していた。居眠の連中までが野坂とばとう。日本の代議士はまだこういう連中であることを忘れるな。



一方では民主団体の調査団が派遣された。調査団の報告では、今日はなかった石が明日になったら知事室においてあった。如何に捏造に狂奔するか断末魔の姿を見よ。



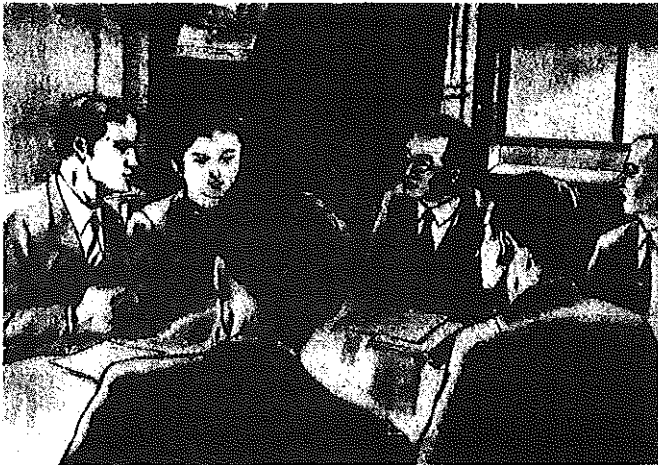
不法弾圧を甘く受けるわけにはいかない、これでは日本の民主化も朝鮮の独立も人民の幸福もあり得ない。署名運動は広大な人民大衆の支持を得て大なる成果を挙げた。



日本側の一方的な被告で遂に軍事委員会裁判にまわされた、我々は日警の不法を訴え無罪になることを主張した。火の子がとんで隣家が焼けた形である。



九同志の獄内闘争は断食をもって始った。外では九同志を救えのスローガンの下に広い活動が続けられている。われわれは最後まで教育闘争は間違っていないと主張する。



今度の教育闘争は我が民族にとって歴史的な事件である。四月二十四日は永遠に記念日として我が民族に残るのである。何時の日かこの恨み晴らす日。

朝鮮人民共和国万歳
教育闘争犠牲者万歳

「4・24教育闘争」に関する資料リスト（補遺）

- (1) 金慶海・編『在日朝鮮人民族教育擁護闘争資料集（Ⅰ）四・二四阪神教育 闘争を中心に』（明石書店、1988年4月）
 - (2) 内山一雄、趙 博・編『在日朝鮮人民族教育擁護闘争資料集（Ⅱ）四・二 四以降大阪を中心に』（明石書店、1989年2月）
- 上記2冊の資料集に収録されているものは除いた。
- (3) 飛田雄一『「神戸朝鮮人学校事件」関係文献案内』
『むくげ通信』（むくげの会）50号、1978年9月
 - (4) 金慶海「文献紹介」『在日朝鮮人民族教育擁護闘争資料集（Ⅰ）』
 - (5) 金英達「占領期の在日朝鮮人教育問題に関する主要文献」『GHQ文書研究 ガイド
・在日朝鮮人教育問題』（むくげの会、むくげ叢書①、1989年7月）
- また、上記（3）（4）（5）の文献リストに紹介されているものも除いた。それらに洩れているものとその後刊行・公開された資料を年代順にリストアップした。
- （作成 金英達）

- 「（在日朝鮮人教育問題に関する）文部省重要通達」『文部時報』（文部省調査局・編集、帝国地方行政学会・発行）1947年4月号～1950年6月号
- 「朝鮮人学校問題の経緯書」（1948年5月1日付、大阪府教育部長 三方 義から大阪地方検察庁あて）
- 「朝鮮人学校問題に関する神戸大阪等現地に於ける調査団と当局側との対談（1948年5月5日）」（朝鮮人学校事件真相調査団作成資料）・『世界の反響を呼んだ血の弾圧朝鮮人教育闘争記録 1948年4月』（労農運動救済会兵庫支部、1948年8月）
- 「朝鮮人教育問題（第一次神戸事件）の経緯」（警察文書、1948年末頃作成？）
- 『兵庫県教育調査資料（昭和24年度）』（兵庫県教育委員会調査課）
- 「兵庫県知事室の“ぬけ穴”－神戸朝鮮人学校事件後日譚」『真相』（人民社）22号、1948年10月
- 「教育弾圧のはしり－東京文京区の朝鮮人学校」『真相』（真相社）63号、1954年5月
- 林光徹「朝鮮人学校廃校問題」『理論』（理論社）1954年12月号
- 内田文夫「戦後の騒擾事件の概要」『警察学論集』（警察大学校・編集、立花書房・発行）14巻2号、1961年2月
- 公安調査庁審理課「騒擾事件等一覧表」『警察学論集』（警察大学校・編集、立花書房・発行）14巻2号、1961年2月
- 上田誠吉『在日朝鮮人の民主主義的民族教育』（在日朝鮮人の人権を守る会、1965年3月）
- 『戦後日本教育史料集成』第2巻（三一書房、1983年1月）
- 瓜生敏雄『動乱と警察』（慶応通信、1983年6月）「神戸事件」
- コオ・カブソン「朝鮮人学校弾圧のなかで」『身世打鈴－在日朝鮮女性の半生』（平林久枝、1987年8月）
- 財団法人神戸都市問題研究所地方行政制度資料刊行会・編『戦後地方行政資料 別巻2 占領軍地方行政資料』（勁草書房、1988年4月）
- 梁永厚「在日韓国・朝鮮人の教育問題ノート」（1）～（24）『書評』（関西大学生協組織部）84

号～111号、1988年6月～1997年10月、連載中。

- 井田一衛（井津本久美夫）「誰かべ・チャウンを知らないか？—40年前の朝鮮人教育闘争のこと」『朝鮮時報』1988年9月5日
- 村上 弘「政治革新と私③—冬の時代」『毎日新聞』1989年11月9日
- 上杉幸恵「解放後の山口県における民族教育擁護闘争」『橋史学』（京都橋女子大学歴史学会）4号、1989年
- 原 英章「満島朝鮮学校—終戦直後の民族教育の軌跡」『伊那』（伊那史学会）741号、1990年2月
- 荒 敬「占領下の治安対策と「非常事態」—神戸朝鮮人教育擁護闘争を事例に」『日本史研究』336号、1990年8月
- 佐野通夫「在日朝鮮人教育を通して見た日本戦後公教育の一考察」『在日朝鮮人史研究』（在日朝鮮人運動史研究会）20号、1990年10月
- 『教育白書—民族教育』（在日本大韓民国居留民団中央本部、1990年12月）
- 金徳龍「在日朝鮮人民族教育小史」①～⑥『ミレ』（パン・パブリシティー）17号～22号、1991年2月～1991年7月
- 梁佑直『미마람 속에서（風雨の中で）』（朝鮮語小説）（文芸出版社、1991年2月）
- 『日本占領・外交関係資料集—終戦連絡中央事務局・連絡調整中央事務局資料』第6巻、第8巻（柏書房、1991年4月）
- 荒 敬『日本占領史研究序説』（柏書房、1994年6月）「占領下の治安対策と「非常事態」—神戸朝鮮人教育擁護闘争を事例に」
- 梁永厚『戦後・大阪の朝鮮人運動』（未来社、1994年8月）「民族教育を守る闘い—四・二四教育闘争」
- 金慶海「四・二四教育闘争」『ほるもん文化』（新幹社）5号、1995年2月
- 高柳俊男「映画『朝鮮の子』—民族教育の原点として」『ほるもん文化』（新幹社）5号、1995年2月
- 『民促協10年史—すべての同胞に民族教育を』（民族教育促進協議会、1995年5月）
- 高柳俊男「岡岡伸好「遠い海」と都立朝鮮人学校の時代」『在日朝鮮人史研究』（在日朝鮮人運動史研究会）26号、1996年9月
- 鄭鴻永『歌劇の街のもうひとつの歴史—宝塚と朝鮮人』（神戸学生青年センター出版部、1997年1月）「宝塚の四・二四阪神教育闘争と民族教育」
- 小沢有作「戦後五〇年と朝鮮学校」『海峡』（朝鮮問題研究会）18号、1997年5月
- 金太基『戦後日本政治と在日朝鮮人問題』（勁草書房、1997年12月）「占領政策の変化と阪神教育運動」

☆1994年4月公開「4・24阪神教育闘争関係の神戸市文書」

☆1994年6月公開「4・24阪神教育闘争関係の兵庫県文書」

☆非公開「神戸地方裁判所（C級裁判）判決文書」

4.24의 노래

作詞 許南麒

作曲 金敬在

또다시 온다 4·24의 날 피에 물드린 월한의 날이

4천년 긴긴 민족의 말을 배우는 자유 빼앗던 날이

그러나 들어라 그러나 보아라 우리의 머리위 새 기발 날고 우렁찬 어린이

소리 들린다 모든 억압을 막차고 나가는 우리 어린이

구두소리 들린다

또다시 온다 4·24의 날
피에 물드린 월한의 날이
4천년 긴긴 민족의 말을
배우는 자유 빼앗던 날이

그러나 들어라! 그러나 보아라!
우리의 머리위 새 기발 날고
우렁찬 어린이 소리 들린다
모든 억압을 막차고 나가는
우리 어린이
구두소리 들린다

再び迎える 4·24
血に染まった怨みの日
4千年悠久の民族の言葉
学ぶ自由 奪われたその日を

しかし聞け! しかし見よ!
頭上になびく新しい旗
声高らかな雄々しい子ら
抑圧を蹴って進みゆく
雄々しい子らの
高らかな足音を聞け

(金慶海訳)

※この歌は金慶海氏の記憶によって復元したものです。完全な譜面と歌詞の資料をお持ちの方は、提供していただければ幸いです。

日爾反動月政府
不足彈圧三六年
天皇神位人間化
東條軍閥刑臺露
秋夜春風怨汝語
如非閔震九一魂
應是間島六十靈
一九四五八一五
軍国主義没落日
言語姓名還元始
教育文化自主營
生命財産保護權
在日朝民兩國體
祖国統一盡忠来
隣邦***

獄中詩

朴柱範

政府は月日を追つて反動化している
三六年の弾圧では不足なのか
神であつた天皇は人間化し
軍閥の東條は死刑台の露となる
秋の夜、春の風にお前は怨みを語る
それは関東大震災の九月一日の魂でなければ
間島の六月一〇日の霊だ
一九四五年八月一五日
軍国主義が没落した日
言葉と姓名を取り戻し
教育、文化を自ら営む
生命財産保護の権利
在日朝鮮人、南北の両国民は
祖国の統一にひたすら尽くし
隣邦***

兵庫朝連財産等
破毀掠奪非日警
難忘彈圧四二四
朝鮮民族刻骨讐
吉田殖田又吉河
違憲規令是何法
結社自由世共認
吉相李統保守犬
吠處同聲防共云
苦生欲學民主義
寧死非貪帝國富
人民大衆倒閣聲
當局官僚有耳聽
悔心収*解散令
不*掛*国民前

兵庫朝連の財産などを
破毀、略奪したのは日本警察ではないのか
四・二四の弾圧は忘れられない
朝鮮民族は復讐を骨に刻む
吉田よ、殖田よ、さらに吉河よ
憲法違反の規令とはいかなる法なのか
結社の自由は世に認められたものだ
吉田首相、李承晩大統領は保守の犬だ
いつも防共云々を吠えまくる
獄中の身であつても民主主義を学びたい
いまは寧ろ死すとも帝国の富を貪らず
人民大衆の倒閣の声
当局、官僚は聞く耳があれば
心を改め解散令を撤回し
国民の前に***

〔解放新聞〕一九四九年十二月十三日 仮訳 堀内 稔

この漢詩は故朴柱範氏が、獄中で朝連解散と学校弾圧に憤激し、病に伏せながら鉛筆書きして本社（解放新聞社）に送ってきたものである。この漢詩が故朴柱範氏の最後の遺作となつてしまった。



忘れまい 4・24—阪神教育闘争50周年記念誌—

1998年4月23日 発行(1000部) 題字 鄭鴻永

編集・発行 阪神教育闘争50周年記念神戸集会

代表 徐根植(兵庫朝鮮関係研究会代表)

飛田雄一(神戸学生青年センター館長)

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1(財)神戸学生青年センター内

TEL 078-851-2760 FAX 821-5878

郵便振替<00970-0-74708「424神戸」>

E-mail rokko@po.hyogo-iic.ne.jp

URL <http://www.hyogo-iic.ne.jp/~rokko/424.html>

定価 400円